



世界にエールを送れるまちへ

積極展開

福島市長 木幡 浩

明

けましておめでとうございます。令和に入り初めての正月を迎えました。新時代の夢を新たに描いた方も多いのではないのでしょうか。

昨年は、新わらじまつりの躍動など、新時代の息吹を感じさせる出来事が続き、市政も新ステージに向け本格的に始動してまいりました。

一方、台風第19号により大きな被害が生じ、辛い新年にならざるを得なかつた方々のことを思うと心が痛みます。被災された方々の生活再建と被災施設の早期復旧に努めるとともに、今次災害の検証を進め、異常気象も想定した防災対策の強化を、市民防災力の向上と合わせて推進してまいります。

今年、大震災・原発事故後10年目に入ります。改めてこれまでの軌跡を振り返り、教訓を次代に継承するとともに、新たな総合計画の策定などにより、新ステージへの道筋を描いていかなければなりません。

3月には聖火が本市を巡り、本市唯一の名誉市民 古閑裕而ご夫妻をモデルにした連続テレビ小説「エール」の放送が始まります。7月は、東京

2020大会本番。22日の県営あづま球場から、全競技の幕が開きます。国内外から多くの人々が集まり、福島からの情報が発信される今年は、本市にとって千載一遇のチャンスです。感謝の気持ちを込めて、復興に向けて挑戦する「実・湧・満・彩・福島市」の姿を発信し、福島らしいおもてなしでお迎えいたしましょう。

また、この機に「古閑裕而のまち」「風格ある県都」にふさわしいまちづくりを進めるとともに、待機児童を解消し、子育て世代に選択いただける子育て支援・教育の新段階を目指します。そして、市民総ぐるみの健康づくり「健都ふくしまの創造」、誰にでもやさしい共生社会への取り組みを進めるなど、市政各般において積極的に展開し、グレードアップを図ってまいります。

誇りをもって住み続けたいまち、世界の人たちにエールを送れるまちへ、市民「ワンチーム」で前進していきましょう。

本年が皆さまにとって、幸多き年となりますよう心よりお祈りいたします。

新

年、明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、令和となって初めての新年を健やかに迎えられたことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、市議会に対しまして格別なるご理解とご支援を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

本年は東日本大震災の発生から節目の10年目を迎えます。未曾有の被害をもたらした大震災と原発事故は、市民生活に大きな影響を与えました。この間、福島市は希望ある復興に向けて着実に歩んでまいりました。

また、昨年10月の台風第19号においても本市は甚大な被害を受けたところであり、被災された市民の皆さまの一日も早い生活再建を心から願うとともに、さらなる防災・減災への取り組みを図ってまいります。

そのような中、本年はいよいよ復興五輪に位置付けられている東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、福島市においては、全競技のトップを切っつて、ソフトボール、続いて野球の試合が

行われます。

そして、それを応援するかのよう

に、春からは本市の名誉市民である古閑裕而氏とその妻金子さんをモデルとした連続テレビ小説「エール」も放送されます。

この世界的なスポーツの祭典は、福島市の魅力や元気な姿、東日本大震災で受けた支援に対する感謝の気持ちを世界に発信する絶好の機会であり、市議会としても復興創生やレガシーの創出、市民の皆さまの健康増進に向けた取り組みを推進してまいります。

新しい年を迎え、私ども市議会といたしましては、議会基本条例の基本理念のもと、議会改革をさらに進め、市民の声に誠実に耳を傾けながら諸課題の解決に積極的に取り組み、明るい福島市の未来と復興に向けて力を尽くしてまいりますので、本年もご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

明るい福島未来と

復興に向けて



福島市議会議長 梅津 政則



新年のごあいさつ

